

## ボツワナ共和国月報(2023年11月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- マシシ大統領、総選挙前最後の所信表明演説
- 総選挙に向けた野党の動き
- 2024年総選挙実施遅延の恐れが浮上

#### 【外政】

- マシシ大統領、ナミビアの「世界子どもの日の式典」に出席
- クワペ外務大臣、サウジアラビア・アフリカ・サミットに出席
- クワペ外務大臣、フランスを訪問

#### 【経済】

- ムーディーズ格付け公表-ボツワナの格付けはA3、見通しは「安定的」-
- 未執行開発予算16億プラを電力公社(BPC)運営費へ転用
- 中国資源大手による銅鉱山買収
- 政府による野菜輸入禁止措置のレビュー結果
- 3Mワット太陽光発電所稼働
- 燃料価格改定-値下改定-
- 10月インフレ率-前月比で0.1%の下落-
- 9月国際商品貿易統計-輸出が前月比で半減-

#### 【当館関連イベント】

- 第10回都筑・ボツワナ交流児童画展
- 中学校特別支援学級棟建設計画の契約署名式

#### 【内政】

#### ○ マシシ大統領、総選挙前最後の所信表明演説

6日、マシシ大統領は、2024年の総選挙前最後となる所信表明演説を国民議会で行った。演説は2時間半に及び、総選挙を意識して、2018年の就任以降の功績を列挙する国内向けのメッセージが大半を占める中、カズングラ橋建設について外交関係の成果として、外国の中で唯一日本からの支援に言及した。

#### ○ 総選挙に向けた野党の動き

かつて外務大臣として日本を訪問したことのあるダウ国会議員(本年5月、与党離脱)は、ボツワナ議会党(BCP)に加入したことを明らかにした。また、新たな政党として、ボツワナ共和党(BRP)が結成され、正式に政党登録がなされた。ボツワナ国民戦線党(BPF)元党首、ブタレ氏ら元BPFのメンバーが加入しているとみられる。

## ○ 2024年総選挙実施遅延の恐れが浮上

独立選挙委員会(IEC)は、野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)による選挙人登録を巡る訴訟により、2024年10月予定の総選挙の実施が遅れる可能性があるとして示唆した。当初11月1日開始とされていた選挙人登録は、UDCの提訴を受けて13日開始に延期されていたが、裁判の長期化により再度延期となり、開始の目処が立たなくなった。UDCは選挙人登録の監視に同党監視員を送り込むべく主張しているが、IECは選挙法に根拠規定がないため受け入れられないとし、両者の主張は相容れない状況にあるため、裁判は2024年半ばまで続く可能性がある。ボツワナ共和国憲法は国民議会の5年での解散及び解散後60日以内の総選挙を定めているため、選挙人登録が遅れこの期限以降に総選挙実施がずれ込む場合、憲法との関係上どのように対応していくのか注視する必要がある。

## 【外政】

### ○ マシシ大統領、ナミビアの「世界子どもの日の式典」に出席

19日、マシシ大統領はナミビアのウォルビスベイで開催された第20回世界子どもの日記念式典に出席した。本式典にはボツワナ、ナミビア、ザンビア、ジンバブエの首脳が一堂に会し、各国首脳が子どもの権利と福祉について議論した。クワペ外務大臣、アウトウェツィ地方自治・地方開発大臣等が同行した。

### ○ クワペ外務大臣、サウジアラビア・アフリカ・サミットに出席

10日、クワペ外務大臣はサウジアラビア・アフリカ・サミットに出席した。本サミットには、アフリカ各国の首脳が出席し、サウジアラビアとの関係強化にむけ、貿易や投資など相互の関心分野における協力強化の可能性について議論した。また、本首脳会議に先立ち、10月27日にはカフェラ貿易・産業大臣及びハレ起業担当大臣がサウジアラビアを訪問し、第7回投資イニシアティブ・フォーラムに出席した。両大臣は、ボツワナの食肉及び関連製品のサウジアラビアへの輸出の可能性について協議した。

### ○ クワペ外務大臣、フランスを訪問

28日、クワペ大臣はフランスのパリで開催された第173回国際博覧会事務局(BIE)総会に出席した。ボツワナにとって、2023年6月にBIE加盟が承認された後、初めての総会出席となった。また、同大臣は、フランスのクリソーラ・ザカロプルー開発・国際パートナーシップ担当国務大臣と二国間会談を実施した。

## 【経済】

### ○ムーディーズ格付け公表-ボツワナの格付けはA3、見通しは「安定的」-

10月27日、ムーディーズは、ボツワナの際立った低債務水準や政治的安定性などを踏まえ、政府の長期現地通貨建て及び外貨建て発行体としての格付をA3とした。また見通しについても「安定的」に据え置いた。

### ○未執行開発予算16億プラを電力公社(BPC)運営費へ転用

セラメ財務大臣は、開発予算の執行が低調な教育・技術開発省、通信・知識・技術省、防衛・安全保障省、起業省などの各省庁の予算から、約16億プラを、ボツワナ電力公社(BPS)の運営費へ転用したと発表した。同大臣はまた、開発予算の執行状況は3.27%に留まっていると説明した。

### ○中国資源大手による銅鉱山買収

21日、中国資源大手MMG社は、ボツワナ有数の銅山であるコエマカウ銅山を買収したことを公表した。買収規模は18.75億米ドル。

### ○政府による野菜輸入禁止措置のレビュー結果

2022年1月から実施されている野菜輸入禁止措置について、12月の期限切れを控え、延長及び品目追加の是非について、レビューが行われる予定である。モラレ農業大臣は、国民議会において、輸入禁止を決定して以来、国内生産が増加し、特定の製品の輸入額が71%削減されたことが禁止措置延長の理由になると訴えた。

### ○3Mワット太陽光発電所稼働

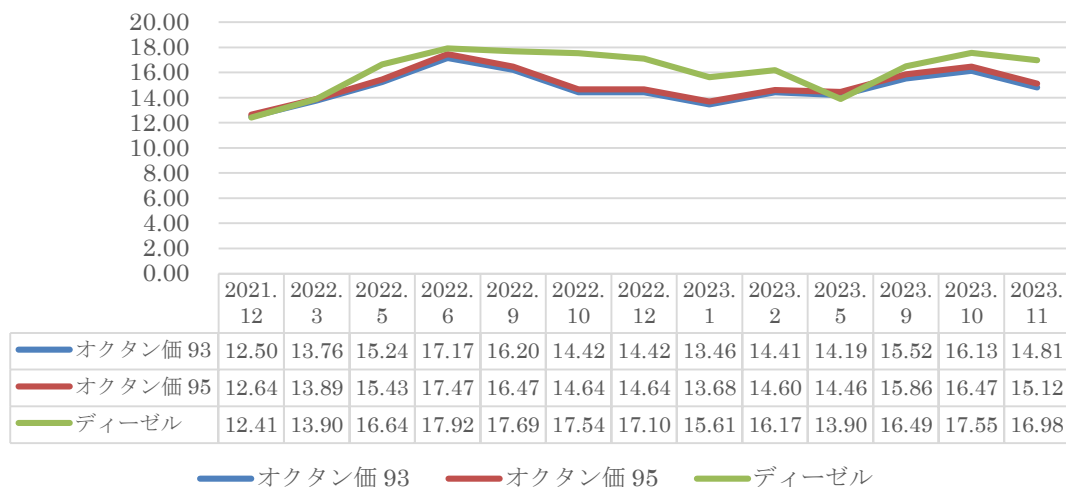
再生可能エネルギーの独立系発電事業者(IPP)であるSturdee Energy社は、3Mワットのボボノン太陽光発電所と1Mワットのシャカウェ太陽光発電所について、ボツワナ電力公社(BPC)との25年間の電力購入契約を踏まえ、10月12日に商業運転を開始したと発表した。

### ○燃料価格改定-値下改定-

14日、ボツワナ・エネルギー規制庁は、前月の原油の世界需要減少を踏まえ、燃料小売価格を以下のとおり値下げした。

品目	改定後の店頭小売価格（一部地域を除く）
ガソリン（オクタン価93）	14.81 プラ/リットル
ガソリン（オクタン価95）	15.12 プラ/リットル
ディーゼル	16.98 プラ/リットル

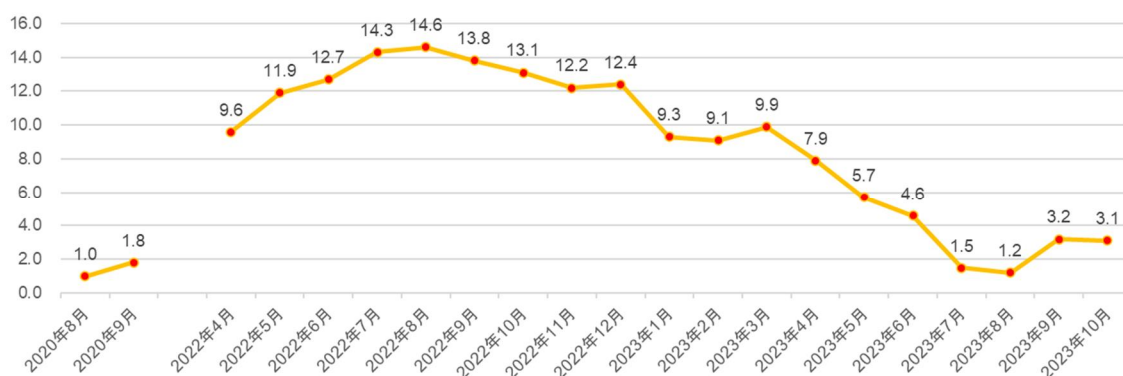
(図: 最近の燃料小売価格の推移)



○ 10月インフレ率-前月比で0.1%の下落-

10月の年間インフレ率(前年同月比)は3.1%となり、前月の3.2%から0.1%下落した。当月の年間インフレ率に大きく寄与したのは、食品・非アルコール飲料(0.9%ポイント)と雑貨・サービス(0.8%ポイント)であった。

(図: 近年のインフレ率の推移)



注:  ボツワナ銀行中長期インフレ目標(3%から6%)

○ 9月国際商品貿易統計-輸出が前月比で半減-

9月、輸入総額は77億2,470万プラとなり、前月の71億5,550万プラ(改定値)から8.0%上昇した。他方、輸出総額は38億2,390万プラで、前月の76億7,690万プラから50.2%の大幅減少となった。これはダイヤモンド輸出が前月比で60%以上減少したことによるものである。結果、貿易収支は前年度に続き2か月連続の赤字となった。

(分野別内訳:上位5分野(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	燃料 19.2	食料品等 17.0	ダイヤモンド 15.3	機械・電機 14.5	化学・皮革 9.9
輸出	ダイヤモンド 62.8	銅 18.7	機械・電機 6.7	塩・ソーダ灰 2.8	プラスチック 1.1

(国別内訳:上位5か国(%))

	1位	2位	3位	4位	5位
輸入	南ア 65.9	ナミビア 13.3	中国 3.1	ベルギー 2.2	米国 2.1
輸出	UAE 23.6	南ア 20.1	ベルギー 12.1	中国 11.3	インド 9.5

【当館関連イベント】

○ 第10回都筑・ボツワナ交流児童画展

10月30日～11月3日、横浜市都筑区等主催の「第10回都筑・ボツワナ交流児童画展」が、ハボローネ市内のベン・テマ小学校にて開催された。2日には本事業開始10周年を祝う記念式典が同校で行われ、大森大使、当地外務省及び教育省、同校教職員、児童3年生他約150名が出席した。また、都筑区関係者もボツワナを訪問し、当地関係者との意見交換や児童との交流が行われた。同校校長は、絵画を通じた文化交流及び相互理解について児童に説明するとともに、都筑区、茅ヶ崎小学校及び当館に対し謝辞を述べた。さらに、8日から10日にかけて、別会場(ボツワナ・ナショナル・アートギャラリー)でも展示会が開催され、一般市民や近隣小学校児童らが両国の児童画を鑑賞した。

○ 中学校特別支援学級棟建設計画の契約署名式

8日、ハボローネ市内にて、当館大森大使出席の下、令和4年度対ボツワナ草の根・人間の安全保障無償資金協力(モツエディ・コミュニティ中学校特別支援学級棟建設計画)の贈与契約(G/C)の署名式が行われた。本事業はモツエディ・コミュニティ中学校敷地内に、1階建て特別支援学級棟を新たに建設し、特別な支援を要する生徒に対して、補習授業を行う教室等を整備するもの。

(了)